

日本救急医学会関東地方会 平成 27 年度 幹事会 議事録

日 時：平成 27 年 2 月 7 日（土） 12:00～13:00
会 場：パシフィコ横浜会議センター 第 1 会場（メインホール）
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい-1-1-1
TEL: 045-221-2155

出席役員

常任幹事：森村 尚登（常任幹事長）、猪口 貞樹（会長）、田中 裕、藤島 清太郎、松田 潔
三宅 康史、矢口 有乃、横田 裕行（次期会長）
監 事：坂本 哲也、山口 芳裕（委任状）

以上のとおり、出席者を確認し、会則第 17 条の規定により、森村 尚登 常任幹事長が議長となり、議長が開会を宣言し、議事に先立ち議事録署名人として根本 学 幹事、北野 光秀 幹事が選任された。

新幹事推薦(森村常任幹事長)

新幹事 20 名の推薦が行われた。今回の候補者については、会員歴、会費納入状況等の資格について事務局が調査済みであり、先に行われた常任幹事会で承認済みであることが報告された。新幹事 20 名が承認され、出席の新幹事 13 名より就任の挨拶があった。

《報告事項》

1. 庶務報告(藤島常任幹事)

2014 年 12 月 31 日時点での総会員数は 1,174 名（うち新会員 131 名）、退会者数 128 名（うち 114 名は会費滞納による自然退会）との報告がされた。会員数は横ばいで推移している。

2. 各常任幹事担当報告

各担当常任幹事より部会および委員会について活動報告が行われた。

①看護部会(三宅常任幹事)

本日の第 65 回(平成 27 年)日本救急医学会関東地方会にて看護部会がメインとなる発表について概要の説明があり、PEEC、救急訪問看護、私はいこうやっているなどのセッションへ多数の演題を提出できたことが報告された。

②救急隊員部会(松田常任幹事)

本日の第 65 回(平成 27 年)日本救急医学会関東地方会と第 52 回救急隊員学術研究会が同時開催されている。次回の第 53 回救急隊員学術研究会は東京消防庁が主催する。開催日は同時期ではあるものの、別日程となる予定である。また、本日 17 時より関東 MC 協議会連絡会議が開催される。

③SOS-KANTO 委員会 (矢口常任幹事)

16,452 例のデータが集積された。2014 年 4 月に委員長が田上先生から櫻井先生に変更になった。2014 年 4 月から 67 の参加施設へデータ配布され、解析作業が進められている。参加施設以外も 2015 年 4 月よりデータ使用可能となる。また、本日の第 65 回(平成 27 年)日本救急医学会関東地方会では 13:00 より本委員会に関連したシンポジウムが開催される。

④編集委員会 (田中常任幹事)

投稿論文数は 73 本で、うち医師部会 60 本、看護部会 13 本であった。2014 年の学会発表 254 本から 70 本の投稿があり、投稿率は 27.5%であった。昨年 12 月発刊の 35 巻 2 号への掲載論文数は 65 本で 3 本査読継続、投稿拒否 5 本、論文受理率は 89.0%であった。編集スケジュールは例年通りであった。SOS-KANTO 活動状況も掲載された。

本学術集会より次号掲載分の論文投稿を受け付ける。昨年投稿規定が変更されていることについて注意があった。

⑤ホームページについて (田中常任幹事)

2014 年 1 月付で変更された投稿規定については HP へも掲載を行っている。その他、SOS-KANTO、学術集会等について更新が行われた。

3. 第 65 回(平成 27 年)日本救急医学会関東地方会について(猪口会長)

順調に開催されている。正午の幹事会時点で総計約 1200 余名、救急隊員学術研究会に約 570 名、日本救急医学会関東地方会に約 670 名の参加である。

4. 第 66 回(平成 28 年)日本救急医学会関東地方会(横田次期会長)

第 66 回日本救急医学会関東地方会が 2016 年 2 月 6 日都市センターホテルで、第 53 回救急隊員学術研究会が同 2 月 12 日文京シビックセンターで開催される。事務局長は日本医科大学付属病院高度救命救急センターの恩田秀賢先生(本会幹事)、事務担当は同教室秘書の広瀬美知子様を予定している。

5. 施行細則変更の報告(森村常任幹事長)

本会幹事の方で、異動のため関東地方会を一旦退会し、数年後に再び関東に戻ってきて、幹事再申請する場合がある。この際、幹事歴のある者は証明書の提出でよく、常任幹事会の承認だけで選任できるように施行細則を変更した。

6. 日本救急医学会評議員の推薦(森村常任幹事長)

日本救急医学会(親会)社員(評議員)選出における各地方会からの推薦について、当会からは茨城の国立病院機構 水戸医療センターの小泉雅典先生を推薦し、親会評議員として承認された。

《審議事項》

1. 2014 年決算報告(藤島常任幹事)

収入については665万円の予算に対し、決算612.5万円と予算比52.5万円の赤字となった。赤字の内訳としては会費および広告収入について予算通りの収入が得られなかったことによる。事業費支出については804万余円の予算に対し、決算6,577,592円と予算比1,463,963円の支出減であった。事業支出減は主に予算上見込まれていた各種会議等が年度内に開催されなかったことによる。事務費は消費税の増加および通信費について予想を超える支出があり、127,090円の支出増であった。次年度繰越金は12,111,036円であった。2014年度決算が承認された。

2. 2015 年予算について(藤島常任幹事)

収入については会費収入650万円、広告掲載料30万円、補助金20万円のおおよそ計700万円を見込む。額面は主に前年度決算額を参考に計上した。支出については刊行費350万円、地方会補助費220万円、会議費50万円、交通費30万円等々を見込み、支出合計は8,881,600円となる。トータルで1,881,400円の赤字予算となる。2015年度予算が承認された。

3. 名誉会員推戴について(森村常任幹事長)

2015年度の幹事会にて承認を行うべき対象者はいないことが報告され、承認された。

4. 次々期会長について(森村常任幹事長)

2017年開催の日本救急医学会関東地方会の会長として獨協医科大学の小野一之先生が就任することが承認された。小野次々期会長より挨拶があった。

5. 新規常設委員会設置について(森村常任幹事長)

SOS-KANTO委員会のデータ集積の終了に伴い、次期の多施設研究や地域に特化した研究のアイデアの受け皿となりコーディネートしていく「多施設研究企画委員会」、関東圏での災害対応連携強化をめざす関東地方災害医療対応検討委員会の前身としての「関東地方災害医療コーディネーター連絡会議」、関東地方での地域内の横方向の情報交換の場の提供を目的とした「関東地方メディカルコントロール(MC)協議会連絡会議」の設置が提案され、承認された。なお、関東地方災害医療コーディネーター連絡会議については3月までに実施される災害医療コーディネーター研修後に設置を進めていくとされた。また、関東地方メディカルコントロール(MC)協議会連絡会議については本日17時同会場にて第1回の会議を開催する。

6. その他

行岡哲男幹事(日本救急医学会代表理事)から救急専門医更新に関して情報提供があった。本年度については(対象者660名(関東地方内では90名程))例年通りの手続きにて更新をおこなう。それとは別に2020年以降の日本専門医機構としての更新制度の構築を進めており、基本となる制度について2015年2月23日に公示予定である。

以上

議事録作成 :北野 光秀 幹事、
一部修正・整形等 :事務局 戸井田 恵一

上記決議を明確にするため、この議事録を作成し、議長及び議事録署名人が次に記名押印する。

平成 27 年 2 月 7 日

日本救急医学会関東地方会 平成 27 年度 幹事会

議 長 : _____ 印

署名人 : _____ 印

_____ 印

【捨印】

印

印

印